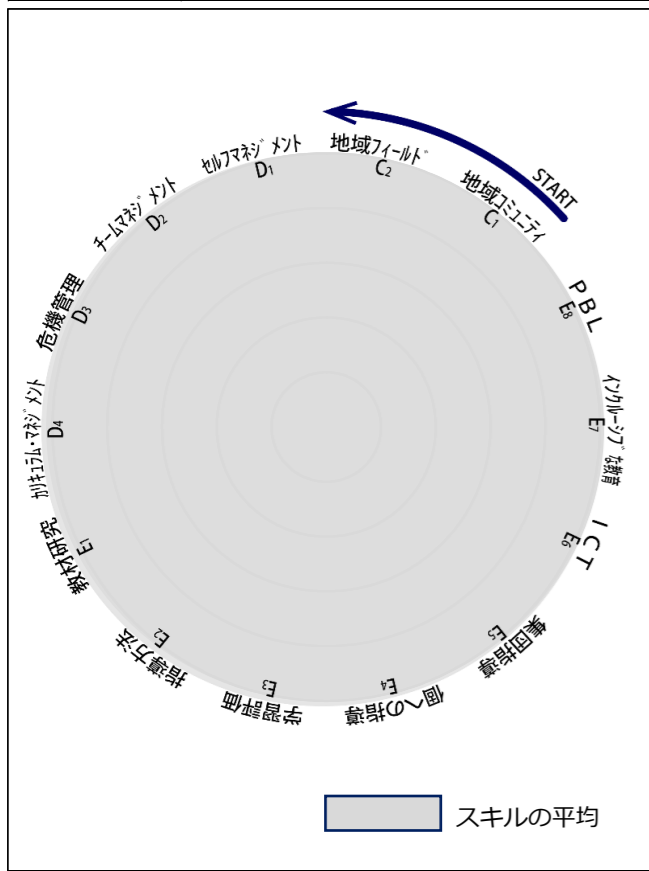


セルフチェックシート

(キャリアアップ研修Ⅱ)

キャリアステージ **Ⅱ 伸長期相当**
(経験5年から10年程度)

学校名
氏名
職名



セルフチェックのまとめ

理念指標	繰り返し自覚し絶えず意識化を図る資質能力		日頃の心構え	
A 高い倫理観と使命感及び確かな子ども理解 ①社会の秩序と規律を遵守し、信頼される存在 ②教員としての責務の自覚 ③子どもに関する確かな科学的知見と深い人間愛				
B 確かな人権意識と共感力 ①全ての人の人権を尊重する態度 ②児童生徒や保護者の思いを感じ取る力				
実務指標	資質能力を支えるスキル	キャリアステージで身に付けるスキル	セルフチェック項目	
C 連携・地域協働社会と力 D 目標実現に向け、柔軟に対応する力 E 「教育のプロ」としての高度な知識や技能	C1 地域コミュニティの拠点としての学校づくり	・学習支援ボランティアの活用など、地域の人的・物的資源を効果的に組み合わせて教育課程を編成する。	地域の人材・企業等の協力による地域学習を教科等の授業に位置付け、学習を展開している。 学習環境を整え、個別支援を充実させるために、教育活動に地域の方の力を取り入れている。 年間指導計画や行事計画等をもとに見通しをもち、教科会や学年会で地域の教育資源の活用を提案している。	
		・地域の課題を発見したり解決策を提案したりする学習を通して、児童生徒が郷土への誇りや郷土の一員としての自覚を深められるようにする。	地域素材を扱う授業を構想している。 自分が住む地域に関心を寄せたり、教科の学習で学んだことをあてはめて考えたりする学習活動を設定している。 調査・体験活動などを通して学んだ自己の考えを地域への思いと重ねて、まとめたり発信したりする学習活動を設定している。	
	D1 セルフマネジメント	・自らの教職キャリアを俯瞰し、強みと課題を明らかにして今後の目標を設定し、日々の教育実践に具体化する。	これまでの自己のキャリアを振り返り、指導力を向上させようとしている。 自身の力量向上のために、自己の強みと課題を明確につかもうとしている。 各種研修への参加、授業参観や授業公開等、教員としての力量向上のための自主的な取組をしている。	
		D2 チームマネジメント	・学年経営や教科経営に積極的に参画し、メンバーと意思疎通を図りながら、既成概念にとらわれないアイデアを提案する。	専門的な能力や指導力を発揮しながら、学年経営や教科経営に積極的に参画している。 教職員や専門スタッフ等の中で意識を共有し、チームで取り組んでいる。 常に見直す意識をもって、地域や学校、児童生徒の実態に即した具体的なアイデアを提案している。
			D3 危機管理	・職場内での同僚性を高め、情報を共有したり、危機管理やコンプライアンスについて話題にしたりする風土を醸成する。
		D4 カリキュラム・マネジメント		・各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標の達成に向けて、教科等横断的な視点で、教育内容を組織的に配列する。
	E1 教材研究 (Plan)		・個々の児童生徒の学びの特性や状況に応じ、既得の知識や技能を活用して課題を解決する学習過程を構想する。	学習のねらいに応じて評価基準を設け、個々の児童生徒の学習状況を的確に把握している。 発達段階や習熟度等に応じて創意工夫を凝らした授業を計画したり、展開したりしている。 児童生徒自ら問いを見だし、課題の追究、課題の解決を行う探究的な学びとなるような授業を構想している。
		E2 指導方法 (Do)	・学習指導と生徒指導の両面から児童生徒の学びを捉え、対話的な関わりを通して、児童生徒がメタ認知能力を発揮しながら「学びに向かう力」を高めていくようにする。	単元や題材など内容や時間のまとまりから考えて、児童生徒の「学びに向かう力」を高めていくようにしている。 授業の中に、学びを自覚できる場面や、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面を設定している。 本時つける力を身に付けるために適した学習活動を取り入れている。
E3 学習評価 (Check-Action)			・「パフォーマンス評価」や「ポートフォリオ評価」など、多様な評価方法を用いて児童生徒の学びの深まりを把握し、学習・指導の改善に生かす。	多様な評価の行い方を知り、実際に活用することを通して、それぞれのよさを理解している。 多様な評価方法を児童生徒の実態や単元や題材等に応じて効果的に活用している。 教科会や学年会に指導の改善を推進するための評価方法の提案をしている。
		E4 個への指導	・コーチングスキルを身に付け、児童生徒自身の主体的な判断や自己決定を促すなど、一人一人のキャリア形成につながる指導に努める。	社会的自立に必要な資質・能力を育てることを意識して指導や支援をしている。 コミュニケーションや基本的なカウンセリングなどの技法を身に付けている(身に付けようとしている)。 児童生徒が、自分で判断したり、決めたりする力を育成するための指導や支援を心がけている。
E5 集団における指導			・様々な教育活動との関連付けを図り、児童生徒の生活や学習の基盤としての集団の機能を高める。	一人一人の児童生徒が安心して個性を発揮することができるよう意識しながら、集団づくりを行っている。 様々な教育活動を、生徒指導的な視点でとらえ、集団の機能を高める指導と結び付けている。 他の教員と、学級等の集団のよさや課題などについて情報を共有し、指導の方向をそらえた上で指導にあたっている。
		E6 ICT活用	・ICTを活用した実践事例を蓄積し、校内で共有する仕組みをつくったり、同僚の相談にのったりして、ICT活用を校内に広げる取組を行う。	授業や校務などの場面でICTを活用している。 授業や、校務に関わる資料作成やデータの整理・共有などについて、効果的な仕組みをつくっている。 同僚の相談にのるなどして、ICT活用を校内に広げる取組をしている。
E7 インクルーシブな教育			・共生社会の実現を目指すインクルーシブな教育の理念に基づき、多様性を認め共に成長する集団づくりに、同僚と協働して取り組む。	外部の専門家等からの情報をもとにして児童生徒の特性をとらえて、適切な支援を行うことができる。 集団のよさ(一人一人に役割がある、連帯感が感じられる等)を学級で共有できる授業づくりをしている。 課題解決に向けて、同僚と意見を交換しながら支援方法を粘り強く探り、有効な支援につなげている。
			E8 PBL	・学習プランを開発したり、ポートフォリオ評価に用いるルーブリックを作成したりして、校内でのPBLの推進を支援する。